

## 2014 年度卒業式祝辞

梅村学園理事長 梅村 清英

本日ここに集う中京大学の卒業生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。お子さまを支えてこられた保護者、ご家族の皆様方には、心よりお慶び申し上げます。また、学生を指導してこられた教職員の皆さんに、この場をお借りして、深く感謝いたします。学校法人梅村学園を代表して、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

皆さんの多くを本学に迎えたのは、あの 2011 年東日本大震災の直後でした。町を、人々を、のみこんだ大津波、すべてを崩壊寸前にまで追いやった福島原子力発電所の爆発事故が、今なお鮮明に脳裏に浮かびます。復興や防災、エネルギーなど、投げ掛けられた様々な課題は、これからも不断に、われわれを問い続けていくでしょう。

未曾有の大震災は、日本経済の長い低迷、デフレに追い打ちを掛けました。アメリカの金融緩和などを背景に急速に進んでいた円高ドル安は、ヨーロッパの財政危機が深刻化したその年の 10 月 31 日には、1 ドル=75 円 32 銭と戦後最高値を更新しました。国内製造業の海外移転が進み、雇用が一層悪化しました。

そうした中で、政権交代により登場した安倍晋三政権は、経済政策「アベノミクス」を通じて、リーマンショック以来の景気後退・停滞からの脱却を図ってきました。本格的な回復へはなお距離を残しながらも、最近の円安などを背景に、トヨタ自動車は史上最高益へと向かうなど、多くの企業が手ごたえを感じてきているようです。

モノづくりの中部では、明るい話題が続いています。さきほど名前を挙げたトヨタ自動車は昨年、燃料電池車「MIRAI（ミライ）」を発売しました。各メーカーが 10 年以上前から開発競争を加速させてきた究極のエコカーであり、世界に先駆けて、一般販売を実現しました。

JR 東海は、リニア中央新幹線の建設工事に着手しました。2027 年には東京と名古屋を 40 分で結びます。12 年後の名古屋が今から楽しみです。さらに、三菱重工業と三菱航空機が開発した MRJ（三菱リージョナルジェット）が間もなく初飛行となります。悲願の初の国産ジェット旅客機が世界の空にはばたきます。

そうした中京圏の未来展望は、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックとも密接に絡みます。オリンピックの波及効果は絶大です。これまで延べ 96 名のオリンピック選手が輩出した本学は、すでに学長のもとにプロジェクトを発足させ、協力の具体策の検討に入りました。

学術の分野でも、地元対応の柱とするのが工学部の開設でした。産業界が求める有為な人材の育成に努め、産学連携にも積極的に取り組んでいます。工学部の加納准教授が東郷製作所との協力で「何もできない赤ちゃん型ロボット・スマイビ」の開発に成功するなど、すでに成果が上がってきています。

また、今日まで本学における産学連携の具体例は枚挙にいとまがありません。その中でも、総合政策学部の学生と寝具製造のKitamura Japanが開発した商品「携帯枕」は、伝統と実績のあるグッドデザイン賞に輝いています。大学発のベンチャー事業も視野に入ってきました。

さて、本学は、皆さんの卒業年度である2014年度、開学60周年を迎えました。その記念すべき時に、長期計画「NEXT10」に基づくさまざまなプロジェクトが動き始めました。建学の精神を踏まえて「しなやかに挑み続ける新生・中京大学」は「自ら考え、行動することのできる、しなやかな知識人を育成」していきます。

建学の精神は、創立者・梅村清光先生による「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」です。その核心である「真剣味」を、校訓としています。その実践として、初代理事長・梅村清明先生は四大綱「ルールを守る。ベストを尽くす。チームワークをつくる。相手に敬意を持つ」を定めました。

本日、理事長特別賞を授与された浅田真央さんは、フィギュアスケートでの活躍を通じて、本学園に大いに貢献してくれました。浅田さんのリンクでの「逆境にあっても、最後まで決してくじけない」姿は、まさに四大綱の「ベストを尽くす」の体現でした。

浅田さんだけではありません。皆さんは、学術、スポーツ、ともに打ち込まれました。公務員試験の最難関である国家総合職10名合格は、中部の私大No.1であり、国公立大学を併せても、名古屋大学に次ぐ輝かしい記録です。本学全体のレベルアップがこの数字に表れたと確信します。

私は第2代理事長の梅村清弘先生、第3代理事長の小川英次先生の後を継ぎ、1昨年秋に、第4代理事長に就任しました。今年は、中京大学附属中京高等学校の前身の中京商業学校開設から92年を数えます。理事長として、2023年の学園創立100周年に向けて、伝統を踏まえた中京アイデンティティーの確立に努めます。

さあ、いよいよ門出です。皆さんはこれから、同窓生の仲間入りです。学園は「愛すべき母校」「誇るべき母校」であり続けます。これからも、ひたむきに走り続けます。皆さんの今後のご健勝、ご活躍を、心より祈念して祝辞とさせていただきます。ご卒業、誠にありがとうございます。